

# 複合的資源管理型漁業促進対策事業（抄録）

斎浦耕二・池脇義弘・吉見圭一郎・團 昭紀

徳島県海域を、播磨灘・紀伊水道・太平洋の3海域に分け、各海域の漁業実態に即した「資源管理型漁業」を推進するための調査を行った。

調査結果の詳細は、『平成12年度 複合的資源管理型漁業促進対策事業報告書』を参考にされたい。

## 播磨灘地域

標本船調査では、北灘、北泊漁協に所属する小型底曳網漁船9隻について操業日誌調査を実施し、ヒラメ、マダイ、クルマエビ等の漁獲実態を把握した。

また、北灘漁協における小型底曳網漁業の漁獲統計調査を実施し、主要漁獲対象種の漁獲量の変動について把握した。

また、資源管理型漁具（袋網が二段になった小型底曳網）の試験操業をおこない、漁獲された小型魚を再放流する場合に、この漁具を使用することによる再放流後の生残率の向上効果について検証した。生残率向上効果の検証は、袋網にあらかじめ人工的に育成した小型のヒラメおよびマダイを入れて曳網し、曳網後の生残率を袋網間で比較することによりおこなった。その結果、スレが少ないと思われる上網の生残率向上効果はマダイで若干みられただけであった。ヒラメがほとんど生残しなかった要因として、輸送などによるスレの影響が考えられるほか、多量に入網した小アジによる圧迫死があり、今後の検討が必要である。

## 紀伊水道地域

パッチ網漁業実態調査では、和田島、阿南、橘町漁協に所属する12統に操業日誌調査を実施するとともに、和田島漁協において春夏シラス漁期に水揚げされたカタクチワシラスの全長測定を毎日行った。また、パッチ網モデル漁家の昭和63年から平成12年までの漁ろうと加工の部門別の経営収支状況を試算した。

網目選択性試験では、用船調査で阿南漁協青年部に協力していただき、ポケット網によるシラス逸出調査を実施した。モジ網収縮試験ではモジ網の海水への浸漬と乾燥を繰

り返すことによる収縮率を求めた。シラス試験採集網作成では、表層、中層に分布するシラスを調査船「とくしま」で効率的に漁獲する簡易的な採集網をニチモウ（株）と開発した。

シラス資源変動予測モデルの改良等では、昨年度に作成したカタクチワシ春シラス漁を予測するためのモデルの改良等を日本NUS（株）へ委託した。

## 太平洋地域

漁獲統計調査では、資源管理対象魚種のモニタリングを実施するため、モデル地区（牟岐地区：牟岐東および牟岐町漁協）の月別漁獲統計を集計した。

トコブシ資源の有効利用を図る目的で、本種の蓄養試験および他県における産地市場のマーケティング調査を実施した。蓄養試験では、牟岐地区で水揚げされたトコブシを用いて出荷調整の可能性を検討したが、蓄養直後から斃死が発生し、生残率は低い結果に終わった。産地市場調査では、全国的なトコブシの流通事情を調査し、牟岐地区におけるトコブシの販売戦略を検討した。その結果、トコブシは高級商材であり、景気の変化に左右されやすい魚種であることが認識された。徳島県におけるトコブシの水揚量は極めて安定しているが、近年の水揚金額の急減は、不安定な社会情勢を反映しているものと考えられた。

有用海藻の増養殖試験では、当該海域の新たな漁業種類として、市場価値の高い海藻養殖の導入を検討した。マコンブおよびフトモヅクに関する試験を実施したところ、マコンブについては、12～7月までの期間であれば当該海域でも生育が可能で、トコブシ人工礁周辺への餌料供給に利用できる可能性が示唆された。一方、フトモヅクは波浪の影響により施設が損壊し、継続的な観察はできなかった。